



▲平成27年4月26日新入寮生歓迎会の前に

平成27年度、南豫明倫館の新入寮生は5人だった。例年に比べ少ないためやや寂しい入寮数だが、寮の内外で多くの経験を重ねたくさんの友人をつくって、明倫館の伝統を引き継いでほしい。オリンピック・パラリンピックまであと5年。今後大会の準備は加速するが、国の内外からたくさんの方が出入りするなか、国際人としての見識を磨くチャンスでもある。

新入寮生歓迎会が4月26日にあり、南豫奨学会の役員や先輩が、新しい仲間を祝福した。



### 入寮生の言葉

## 恐れず、国際人としての見識を磨こう 二十七年四月 精鋭五人の寮生活始まる

入寮生氏名(大学・学部、出身地)  
 1 自己紹介 2 将来の抱負

井上 天馬(早稲田大学・国際教養学部、松山市)

中高五年間サッカー部に所属し、東京大学合格を目指して一年間浪人しました。趣味は登山で、富士山や北アルプスに登りました。つまらない人間ですがよろしくお願いします。

国連機関や国際NGOで働くつもりです。出来るだけ多くの発展途上国に行く機会を設けると共に、語学の勉強や先人の知恵が凝縮された本の多読を続けていこうと思います。

松田 駿之介(明治大学・情報コミュニケーション学部、松山市)

中学と高校の六年間、ソフトボール部に所属していました。スポーツと音楽と睡眠が好きで、高いところが苦手です。

将来の目標がまだ決まっていけないので、この四年間で様々なことを経験し、自分の可能性に挑戦したいと思っています。

新口 雄大(日本大学・経済学部、八幡浜市)

私の趣味はスポーツです。特に野球が好きであり、小学から高校の間は野球一筋でした。とにかく体を動かすことが好きなので、サークルにも体を動かすことがしたいと思っています。

私の将来の抱負は、実家に帰って農業をすることです。みかんで有名な愛媛県のみかんを栽培しており、四都府県に販売しています。もっと販路を拡大していきたいと思っています。

清家 大誠(国士舘大学・理工学部、宇和島市吉田町)

私はひとみしりではありませんが、一度仲よくなってしまうと、とことん仲よくできるところが長所です。夢は建築家になることです。

私は将来は大学卒業後、建築の会社に就職し、四年間の実務経験をつみ一級建築士になりたい。そのためにこれから大学で建築について深く学んでいきたい。

大和田 凌(成城大学・経済学部、愛南町)

僕は愛南町で生まれ愛南町で育ちました。一年間、香川県で予備校生活を送ってから、上京しました。非常に負けず嫌いな性格をしていると思います。

将来は編集者に成りたいと思います、上京をしてみました。将来、夢を叶えられているかは分かりませんが、この明倫館で、社会に出た時に必要な能力が身につくように、頑張ります。

### 平成27年度在寮生 大学・出身高校一覧

(平成27年6月30日現在)

在籍大学	1 東京大	2 東京海洋大	3 東京工業大	4 青山学院大	5 国学院大	6 国士舘大	7 駒澤大	8 上智大	9 尚美学園大	10 名城大	11 専修大	12 帝京平成大	13 東京経済大	14 明治大	15 立教大	16 早稲田大	17 その他	18 合計	
八幡浜	1													3	1		5		
宇和島東	1	1		1	1	1	1	1			1	1		3	3	3	18		
宇和島南				1										1	1		3		
南宇和				1						1							3		
松山東															1		1		
愛光														1	1		2		
新田					1												1		
済美平成		2															2		
帝京第五												1					1		
鳥取中央育英				1													1		
合計	2	1	2	2	1	3	1	1	1	1	1	1	1	4	5	1	5	4	37

(学生数には大学院生1人を含む)

### コミュニケーション 能力の向上をめざす

自治委員長 宮下 樹

平成二十七年前期・寮長を務めさせていただく宮下樹です。伝統ある明倫館を更に活気づけられるよう、寮生全体で協力しながら責任感を持つ

### 平成27年度 前期自治会役員

寮長	宮下 樹
副寮長	赤松 浩介
	上田 祥一郎
会計	本城 航
整備	近藤 誠志郎
風紀	和泉 圭佑
サロン	加州 陽太
情報	黒田 圭太郎

### 平成26年度 後期自治会役員

寮長	宇都宮 和彦
副寮長	大野 寛人
	加藤 大輝
会計	上田 敬人
企画	渡邊 圭
整備	横山 尊
風紀	古泉 翔悟
サロン	高村 凌平
情報	池田 洋生

七月下旬頃から多くの学生が期末テストの期間になります。学生の自分である勉学を疎かにしてはいけません。よく学びよく遊ぶ、充実した寮を作り上げられるよう自治会が中心となり活動して行きたいと思っています。どうぞ今年度もよろしくお願ひします。

新入生が入寮し三カ月が経ち、寮の雰囲気も落ち着いてきました。一年生も寮での生活にだいぶ慣れてきたのではないかと思います。挨拶などのマナーや普段の生活の中での規律をもう一度見直すべき時期であり、小さなコミュニケーションではあります。集団の一員であるということ全員で意識したいと思っています。

他寮に誘っていただくものもありますが、寮生には積極的に参加して欲しいと思っています。

今年度は自治会企画のイベントを積極的に開催し、寮内の親睦を深めることはもちろん、明倫館以外の県人寮との交流を図っていきたくと考えています。既に府中市にある富山寮と対抗野球試合を何度か行いました。明倫館寮生一丸となって協力し、また他寮の学生と交流することで、自分たちの寮生活を見つめなおす良い機会となっております。明倫館を含む「愛媛四寮交流戦」や「佐賀寮との交流」も考えています。明倫館企画のものや

て活動していきたいと思っています。

### 南豫奨学会 新役員を選出

公益財団法人南豫奨学会は第一回定例理事  
会を六月六日、定例評議員会を同月二十日、南  
豫明倫館で開き、新役員などを決めた。  
退任された方々に対しましては、長きにわた  
り南豫奨学会の運営にご尽力賜り衷心より感  
謝申し上げます、今後ともご協力をお願い申し上  
げます。選出理事、評議員は次の通り。  
(敬称略・順不同)

#### 理事

- 伊達 宗信 岡添 弘
- 岡本 健 西原 賢次
- 猪原 英彦 廣瀬 了
- 横田 弘之 石田 則雄
- 奥島 孝康 今村 敬
- 新津 昭雄 本田 裕幸
- 佐渡 吉晴 藤田 元信

#### 顧問

村重 享

#### 監事

- 崎山 謙治 菊地 史晃
- 清家 學

#### 評議員

- 荒張紀久子(旧姓伊達) 別宮 興仁
- 松影 通男 戸梶 學
- 山宮 満安 村尾明弘
- 黒田 清宏 水口重仁
- 河野 数夫 榎本能広
- 上甲 健二 坂本昭彦
- 酒井 利長 下田 豊
- 藤井 昭生 山本弘幸
- 安村 弘紀
- 宇都宮高明

#### 審議員

- 番匠 健 徳増 典洪
- 薬師寺仲利 桑原 宏行
- 布 久光 片岡 文彰

#### 審議員

- 芝 壽志 河野 秀康
- 武内 正直 入江 伸明
- 兵頭 正 高辻 元
- 大六 光彦 中山 敦之
- 新津 昌雄 谷口 祐一
- 網江 静夫 宇都宮凡平
- 三好 七郎 正木 寿仁
- 若山 清志 中屋 健二
- 猪野恵一朗 向田 陽二
- 相山吉ノ助 高平 善夫
- 奥村 光男 湖西 成仁
- 高門 清彦 児玉 雅人
- 中島 仲義 清水宏一郎
- 中山 孝二

#### 評議員選定委員

- 崎山 謙治 片山 祐二
- 酒井 利長 廣瀬 益久
- 藤田 和仁

### 光陰矢のごとし。 懐かしい「目黒・明倫館」 時代を語る

館長 戸梶 學

#### 「目黒・明倫館」は木造二階建て。 北寮と南寮にわかれて

およそ三十年前まで、南豫明倫館は都内目  
黒区上目黒にあった。若い頃の記憶は不思議

といつまでも覚えていて、五丁目十七番二十七  
号という番地の詳細まで忘れたことはない。

西隣は自衛隊中央病院の広い敷地が陣取  
り、さらにその向こうに世田谷公園があった。  
最寄りの東急・東横線中目黒駅と祐天寺駅と  
を三角形で結ぶ所に南豫明倫館は建っていた。  
寮の建物は木造二階建て。南寮と北寮に分  
かれ、食堂と廊下でつながっていた。

寮生のほとんどが一部屋二人で、四年生の特  
権は北寮二階、四畳の一人部屋であった。ただ  
下級生でも一人部屋を望む者は、階段下や倉庫  
を改造したような場所をくじ引きで射止め住  
み込んだ。当時、寮生には個室という概念はな  
く、単に一人部屋か二人部屋だった。現「小金  
井・明倫館」はオール個室だが、あの頃と比べ  
れば贅沢そのものである。

寮生は今と変わらず約六十人いた。私は戦  
後の「新生・明倫館」から十六年が経過した昭  
和四十三年に入寮した。その頃の寮費は二食  
付で六千円〜一万二千元と安かった。

#### 校歌あり、春歌あり。 青春を謳歌したあの頃

三、四年生の先輩は、実に当時は怖い存在  
だった。

入寮した数日後に、大学生のプライドに第一  
撃をくわされた。食堂のテレビの前にひとり  
座って足を組んで見ていると、無言で背中を叩  
くものがある。振り返ってみると、Sという三  
年生だった。玄関脇の卓球場に呼び出され「お  
前はテレビの前で足を組んで横着だ」などと  
説教された。「ああ、こんなことで先輩は怒るの

か」と悟ったが、怖かったその先輩とも、そのう  
ち親しくなった。

今の寮生と異なるのは当時はカラオケもな  
く、校歌や「春歌」をよく歌ったことだ。新入寮  
生歓迎会(四月)と寮祭(十一月)、卒業生歓送会  
(二月)は食堂で奨学会の理事やOBとともに  
交流をし、その後は班ごとに部屋に分かれて飲  
み会をやった。いい加減アルコールが回ると歌  
が始まる。少なくとも年に三回、四年で十二回  
宴席があるから、自然と歌は覚えてしまう。東  
京六大学の校歌や東京農大の大根踊りなどは、  
よく聞いたものだ。それに引き換え、今は寮内  
から全く流れて来ない。まして「春歌」などは死  
語になった。上目黒時代、窓を開け放しで、夜  
遅くまで大声で「春歌」を、いわゆる高歌放吟  
するのだから、近所はたまったものではない。

若者の騒ぎをよく許してくれたものだ。  
♪神田の 神田の 神田通れば 神田の  
本屋のねえちゃんがちよいと招く♪  
♪そいつあ明倫館の書生さんは  
勉強好き♪

この歌は、「目黒・明倫館」のOBなら誰でも  
知っている。中目黒や祐天寺、渋谷そして吉原  
の地名が入る馴染みの歌なのだが、今の寮生  
はこれまた知らない。この歌ぐらいいは、伝統の  
歌として受け継いで欲しい。でも今年は二月の  
卒業生歓送会で寮生に先輩が披露したが、関  
心は高まらなかった。

あの入寮時に怒られた先輩とも、  
その後よく飲んで、よく語った  
寮では先輩、後輩たちとよく飲んだ。今は禁

### 平成27年度主要行事予定

平成27年	
4月 1日 (水)	新入寮生が入寮
4月12日 (日)	花見・バーベキュー 新入寮生に寮則説明
4月26日 (日)	第1回常務理事会 新入寮生歓迎会
5月16日 (土)	第2回常務理事会
6月 6日 (土)	第1回定例理事会
6月20日 (土)	定例評議員会
8月 3日 (月)	夏季休暇開始
8月15日(土)	夏季休暇終了
9月 5日 (土)	第3回常務理事会
10月10日 (土)	寮生保護者懇談会(宇和島) 入寮説明会(宇和島)
11月22日 (日)	第4回常務理事会 寮祭
12月 1日 (火) ~4日 (金)	中・南予の高校訪問
12月12日 (土)	第5回常務理事会(忘年会) 第1回新入寮生書類選考(東京)
12月19日 (土)	第1回新入寮生面接選考(宇和島)
12月25日 (金)	冬季休暇開始

平成28年	
1月 7日 (木)	冬季休暇終了
1月16日 (土)	第2回定例理事会(南豫明倫館)
2月14日 (日)	第6回常務理事会 卒業生壮行会
3月12日 (土)	第7回常務理事会 第2回新入寮生書類選考(東京)
3月19日 (土)	第2回新入寮生面接選考(宇和島) 出席理事・評議員懇親会(宇和島)
3月下旬	平成28年度新入寮生が入寮

※予定はお断りなく変更されることがあります。

止事項だが、当時は未成年でもよく飲み連れ  
て行ってくれた。入寮時に「テレビ」で怒られた  
先輩には、屋台のおでん屋に誘われ、焼酎を炭  
酸水で割った「ホイス」(ホッピーともいった)  
をこちそうになった。炭酸水は無味なものだか  
ら、焼酎がどれだけ濃いかよくわからない。  
先輩は三杯、私は四杯飲んだが、さして酔わな  
かった。先輩には負けるわけにはいかない。  
「戸梶は酒が強い」と誉められた。  
こちらは小学五年の時に、湯呑みで赤玉ポ  
トワインを三杯飲んで母親から  
「もうやめなさい」と止められた実績があるか  
ら負けるわけにはいかなかったのだ。

#### 近所の蕎麦屋で、 憧れのカツ丼が百八十円の思い出。

明倫館から大通りに出て南に下った蛇崩  
(じゃくずれ)交差点近くに「更科」という蕎麦  
屋がある。このカツ丼は当時百八十円から三  
百六十円と値段は変わったが、おいしかった。  
財布にゆとりがないと食べられなかった。出前  
でカツ丼を食べていると

「お前、仕送りがあったのか」  
と言われたりした。倉庫の荷物運びのアルバ  
イトをしていて、

「二階から飛び降りたらカツ丼をおごる」  
との声にそのまま実行し、足を折った猛者もい  
た。先日、その蕎麦屋で約四十五年前のOBた  
ちが飲み会をやって、往時を懐かしんだ。「六十  
代の青春」はまだまだ元氣である。

### 編集後記

暑い日が続いています。皆様、お体を大切に  
してください。明倫館だよりができればありが  
ましたのでお届けします。

新入寮生はそろそろ、共同生活に慣れたよう  
です。大学から帰ると温かい夕食が待ってい  
て気心の知れた友達もできた。

共同生活の素晴らしさがわかるのはまだ難し  
いかもかもしれませんが、徐々に感じてもらえる  
よう期待します。

(戸梶)